令和５年度８月28日
令和５年度　霧島市特別支援教育研修会

＜教育委員会から＞
〇特別支援学級の教育課程の現状
・自立活動の時間が特設されていない。国語と算数だけを特別支援学級で授業を受けている。機械的でかつ画一的な教育課程を編成している。交流級中心の学校生活になっている。担任間の連携が取れていない。

〇交流及び共同学習の現状
・ただここにいるだけ。同じ時間を共有しているだけ。お客さん状態。特別支援教育支援員がいないと…。
⇒交流：相互の触れ合いを通じて豊かな人間性を育む。　共同学習：教科等のねらいを達成する。

◎インクルーシブ教育システム⇒同じ場で共に学ぶことを追求すると共に、個別の教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる多様で柔軟な仕組みを整備することが重要である。

＜長寿・障害福祉課から＞
〇放課後等デイサービスの活用、療育手帳の取得
　放課後等デイサービスの利用は現在697名、保育所等139名とのことで保育所等事業所の伸びが少ない。

＜講義＞
〇地域支援体制の中で子どもを支えるとは
・通常級の中に支援を要する子がいる。
・教室で出来る支援
　苦手さを強調しない・自尊心を傷つけない
　　↓
　認知方法を正しく捉える、何によって苦手さがきているか。
　　↓
　　支援へ繋げる（成功するための支援）

・個人差について
　個人間差：集団内の個人間の差異を明らかにする➡分類 / ラベリング
　個人内差：個人内にある発達的差異を明らかにする➡効果的な教育プログラムを導く、保護者支援を同時に

・こどもの自己実現は三位一体
　特性を理解したやり方で、必要な支援や自律的なツールを活用して、同時に個に応じた力を促進する
　➡これによって子どもの自己実現は拡大されていく、はずせない支援もある。

・本人の将来について考える
　２３歳の姿　　知的障害　就労支援、精神障害　就労支援　、ボーダーの苦悩、　一般就労
　　自立する力、生きる力
　　学級経営という我が国の教育の特色をもう一度